

令和4年度 西東京市立柳沢小学校 学校評価報告書

学校教育目標 思いやりのある子 深く考える子 きたえる子 行動する子								
目指す学校像(ビジョン)								
【目指す学校像】 児童が「分かる喜び・できる喜び」を味わえる学校 保護者が安心できる学校 地域が誇りに思う学校								
【目指す児童・生徒像】「よく学び よく遊び よく食べる」をキーワードとし、「知・徳・体」の調和のとれた生きる力をもつ子								
【目指す教師像】 笑顔あふれる教師 児童の状況をしっかりと把握する教師 把握したことを踏まえた授業や指導を確実に行う教師 児童の満足する姿に喜びをもつ教師								
前年度までの学校経営上の成果と課題								
昨年度の全国学力状況調査(6年)では、「知識・技能」面において全国平均値を大幅に上回ることができた。これは「基礎・基本の定着」という目標を達成したと言える。しかし、「東京ベーシック・ドリル」の正答率や満点率は、全学年において低い傾向にある。特に、算数科における基礎基本の技能を全児童に習得させることが急務である。また、望ましい学習規律が身に付いていない児童に正しい姿や態度を確立させることも早急に解決しなければならない。								
	具体的方策	第1回評価		第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策	
		努力目標	成果目標	努力目標	成果目標			
確かな学力の向上	授業中、授業者や発表する友達の話をしっかりと聞かせる。	4	4	4	4	「先生の話をよく聞いている」のは、とてもよいことである。しかし、地域のスポーツの様子から、「本当に聞いているの？」と思う子どもが多い。「聞く」ということを「習慣」であり「くせ」にしていかなければならないと考える。	「オンライン授業では、友達のを共感し合いにくい」というデータがある。やはり、同じ空間で友達が同室にいる雰囲気を感じながら学習することは大切であると感じている。今後も、話し合いの場を適宜設けた授業づくりをしながら学力を向上に努める。	
	全児童が、算数科における該当学年の「知識・技能」を確実に習得することができる。	4	4	4	3	昨年度は、オンライン授業があり、児童の基礎学力の低下を招かないよう、授業内容を工夫してきた。今年度は、昨年度の平均正答率を上回り、90%を超えた。タブレットPCを利用した計算練習の効果も表れている。	2学期の学習内容が1学期よりも難易度が上がるため、平均正答率を90%にすることが困難だった。ただし、計算力に関する技能に関しては90%以上を維持している。今後は、図形領域における知識面の理解力を高めるための指導の工夫をしていく。	
豊かな心の育成	「相手の目を見て、一礼する挨拶」という新しい生活様式を全児童に徹底させる。	3	2	3	2	児童における肯定的評価の割合は87%である。これは、昨年度末の数値より向上している。本調査後、代表委員会や第6学年児童による「あいさつ運動」を実施し、大きな成果をあげている。夏季休業を挟んでしまうが、今後が楽しみである。	児童における肯定的評価の割合が88%上がった。代表委員会や高学年児童が全校児童を態度で引っ張っている結果である。今後も、「高学年が模範となる」ことを中心に挨拶の輪を広げていく。	
	いじめに関する調査を定期的実施したり、日々の児童の言動の変化に気付いたりするなど、実態を把握し、組織的に対応する。	4	4	4	4	常に、いじめのない学校を目指している。いじめの未然防止はもちろんのこと、万が一あったとしても、早期発見・早期解決に努めてきた。必要に応じて、学級の枠を越え、学年集会や児童のカウンセリング等も実施している。	一年間を通して、数件のいじめを認知した。いじめの未然防止のための授業を行っているが、「0」にはならない。早期発見・早期解決に努める場面があり、「対応ではなく、未然防止」を痛感している。今後も「いじめは絶対に許さない」姿勢を貫いた指導をしていく。	
健やかな体の育成	芝生の校庭での遊びや運動を励行し、日常的に体力の向上を図る。	3	3	4	3	本調査時期が、7月上旬である。今年度も新型コロナ感染拡大防止対策というより、むしろ暑さ指数の数値上昇により、校庭での活動を大幅に制限されてしまった。7月のほとんども児童は、校庭を使用することができなかった。	休み時間には多くの教員が子どもたちを遊んでいる姿が見られる。「食」に関して、好き嫌いのある児童が近年さらに増加しているのが懸念である。また、朝ご飯を食べてはいるが、果たして「量」が足りているのかは、各ご家庭でのだろうか。	芝生の校庭のデメリットは、養生期間には校庭を1か月程度使用できないことである。この期間の休み時間、体育館の使用を学年ごとに認めているが、校庭使用のレベルに追いついていない。
	毎月の給食だよりや、日々の「食」の関する話を通して、食育を充実させ、児童が「朝ご飯」を毎日食べるように促す。	4	3	4	3	この3年間で、児童における肯定的評価の割合は「93」→「95」→「95」であった。保護者様の評価も98%と高い。今後も、保護者の皆様と協力し、100%の達成を目指していく。	児童における肯定的評価の割合は「95%」保護者は「98%」であり、1学期と同様の結果だった。数値の上げ止まり傾向が見られる。逆に見れば、この高数値を維持している現状は素晴らしいとも考えられる。しかし、目標値は「100%」である。	
開かれた学校	保護者目線にたち、必要な情報を早急にメール配信したり、学校HPに記載したり、学年だより等で知らせたりする。	4	4	4	4	必要に応じて、学校連絡メールや学校HP等で情報を発信してきた。1学期は、昨年度の3学期に引き続き、分散型ではあるが、学校公開を行った。2学期は、これまで通りの通常の公開を予定していたが、7月末現在、第7波が日本中を襲っているのが気になる。	「青少年育成あしたば会」や「やぎサボおやじず」の催しにも児童が参加している。コミュニティスクールに向けて、今後も新しい企画を提案していきたい。	これまでと同様、保護者への情報伝達をこまめに行ってきた。学校公開を全学年フリーにすることを常に念頭に置きながら計画しているが、そのたびにコロナの第0波が襲ってくる。今回は第8波が気になり、なかなか通常の公開ができないのが残念でならない。
	地域人材を活用した授業等を各学年、年間指導計画に位置付け、確実に実施する。	3	3	4	4	昨年度と違い、比較的穏やかな感染状況であったため、1学期中に地域の方をお招きしたり、地域に出向いたりして授業を実施することが多かった。2学期も地域の方のご協力をいただきながら、学習の理解を深めていきたい。	スーパーマーケットと3年生との学習のつながりが現地に行くときよく分かった。とてもよい活動である。	令和4年度になって、やっと予定していた地域人材を活用した授業を展開することができるようになった。しかも、地域の皆様や企業の皆様から出前授業のご提案数が増加し、より質の高い学習を児童が体験できるようになったことは大変喜ばしいことである。今後も、大いに活用していきたい。
働き方改革	各教職員の出勤時刻に合わせた、退勤限度時刻を設定し、遵守させる。	1	1	1	1	達成度が90%に達しない限り、評価は「1」となる。一週間の勤務時間を53時間以内にするには、残業時間は2.5時間までとなる。これを踏まえると、18時30分までには毎日退勤すればいいことになる。しかし、これよりも遅くなったり、定時退勤はするものの、土日に出勤したりすることがあるのが現状である。	先生方がとても忙しいようである。心身の健康が心配である。休み時間に子どもと遊ぶ先生が多くてありがたいが、健康第一である。	教員間での研修の中で「働き方改革」に関して学ぶことがあった。これまで会議を精選したり、各教員が退勤時刻を設定したりするなど工夫してきた。しかし、まだまだ「改革」といえるレベルには到達していない。今後は、時間の使い方やカリキュラムマネジメントをより意識した改革をしていく必要があることをより理解し、さらなる自己改革に取り組んでいくことが大切である。
	会議の精査や会議の適切な時間の設定、そのための提案の仕方の工夫に教職員一人一人が取り組む。	2	1	3	3	様々な業務改善をしてきたが、新しい会議が盛り込まれることがあり、会議の精査がなかなか進まないのが現状である。夕方の打ち合わせの回数を5回から2、3回に減らし、その分、教材研究や学年会の時間にあててきた。今後も、業務に支障のない程度に改善を図る必要がある。		